

【論文】

幼児期の親の関わりと子どもの行動
—親アンケートによる探索的予備調査—

高木 真理子*

Parents' Attitudes and Behavior of Children
-A Pilot Survey for Parents-
TAKAGI Mariko

幼児期の子どもを持つ親の育児態度として、しつけに厳しい態度、育児を負担に感じる態度、子ども文化を楽しむ態度が考えられている。実際にたくさん話したり遊んだりしているか、感情的に怒ることはあるか。また、子どもはどんな習い事や遊びをしているのか。子どもの発達としつけ態度の関連はどうか、このようなことを調べる親のアンケート調査をした。

その結果、子どもとの生活を楽しむ態度は大部分の人が持っていた。習いごとや絵本の読み聞かせをすることと、家を行き来するような友達との付き合いがあることとは、いろいろな活動をすることになり遊びのレパートリーも多いようであった。

親の関わりとしては、子どもと一緒に遊ぶこと、困っていたら説明する、うまくいったことを褒める、不安を感じていたら慰めるなど、関わりが多いことが、子どものことばのやり取りの発達に良い影響をもたらしていることが示された。

キーワード：養育的関わり、読み聞かせ、遊び、子どもの行動抑制、ことばのやり取りの発達

I. 問題

子どもの発達に伴って、食べさせる、寝かせるなどの身体的ケアのほかに、少し高い声の調子で話しかけ、興味を持てるものを一緒に見たり、もののやりとりをしたり一緒に遊んだりなど、心を育むかかわりが増えていく。幼児期には身辺自立のしつけのほかに、絵本を読んだり親や友達と遊んだりする。

このようないろいろな関わりは家庭によって、親の育児についての考え方によって、関わり方にどんな違いがあるのだろうか。

幼児期の親の態度と子どもの性格について、古くは、サイモンズ(Symonds 1937)、ラドケ(Radke 1946)の研究がある。親の養育態度を質問紙調査などで調べ、支配的・保護的、服従的・専制的などの傾向によって分類し、子どもの性格や行動特性との関係を見たものである。日本でも調査され、親の養育態度と子どもの性格に

緩やかな関連が見出されている(詫磨ら 2003)。家庭の役割としては、子どもを社会から保護する保護的な役割、子どもを社会の一員として成長させる社会化の役割、この2つがある。親の養育態度としては、中庸の、民主的な態度がよいとされてきた。

そして、思いやりのある態度を育てるにはどのような関わりをしたらよいかという研究があり、ホフマン(Hoffman 1967)によれば、説明的しつけがよいという。説明的しつけは誘導的しつけともいい、何が起こったか事実を確認し、相手の気持ちを考えさせたり、何ができるか本人がすべきことを考える方向に誘導したりするしつけである。よくないものとして、好ましくない行動を力で抑制するようなしつけや、そんな子には～をしてあげませんよと愛情除去の脅しを使うしつけがあげられている。ホフマンによれば、相手への共感の態度をもてるように

*越谷保育専門学校・川村学園女子大学非常勤講師

し、自分の責任を考え、解決策をとれるようにしていくのがよいとされている(中島 1993)。

最近の研究では、幼児期の子どもへの親の養育スキルを測定する研究(三鈷 2008)がされている。親の養育スキルについては、もともと1歳半の検診や3歳児検診に来る親に育児ノイローゼのスクリーニングをしたり、虐待予防の対応が必要な人を見つけたりする目的があり、また、育てにくい気質の子にどんな育児をするか養育スキルを高めようとする試みもなされている(原田 2006)。そのような経緯で臨床領域から養育スキルを測定する研究がでてきたので、虐待予防の内容や育児不安の測定が含まれている。

この他、幼児期に本を読む態度を育てようとするリテラシーの育成を中心にした研究があり、このために親がどのような関わりをしているか調べる調査研究が行われている(内田 2009)。このプロジェクトでは国際的な学力比較研究であるピサを主眼として、PISA型学力の育成のための関わりを調べている。これによると、幼児期の親の態度としては、しつけに厳しい態度、育児を負担に感じる態度が測定され、もっとも望ましいものとして、子どもと子ども文化を楽しむような「共有的な育児」態度がよいとされている。この態度の親は、教育のためにしなければという態度ではなく、子どもの絵本を楽しんで一緒に読む行動がみられる。

以上の、これまでの研究をふまえ、幼児期の子どもに親がどんな関わりをしているか、その背景にどんな育児態度があるか、調査をする。また、親のこれらの態度や行動と、子どもの発達とに関連があるかも調べてみたい。

Ⅱ. アンケート調査

1. 調査項目

1) 育児態度について

育児態度については、内田らの研究にもとづき、しつけに厳しい態度か、育児を負担に感じるような態度か、子どもと楽しい体験を共有するような態度か、3つを測定することにする。6

つの質問からなっている。

2) 実際の関わりについて

「子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている」などの10項目について、いつもそうしている(4)から全くそうしない(0)のどれかに印をつけてもらう。

3) 家の生活について

まず、寝る時間、起きる時間、テレビ視聴時間を聞いた。子どもがしている習いごとについて、選択肢に○をつけてもらい、また、家で絵本の読み聞かせをしているか、いつもそうしている(4)から、まったくそうしない(0)、を選んでもらった。ほかに、子どもが気にいっている遊び、友達のところ遊びに行くことがあるかなどを聞いた。

4) 子どもの日常の行動について

「片づけましょう」というとお片づけできるなどのしつけの項目、「大人に何か質問されたらきちんと答える」などのコミュニケーションの項目など、11項目について、いつもそうしている(4)、から全くそうしない(0)の選択肢から○印をつけてもらった。

2. アンケート調査の実施

ある幼稚園の年中・年長のクラスで、園の方から協力を呼び掛けてもらい、お便りを家に持ち帰り記入して提出してもらった。任意参加であったがかなりの協力があり、67人の回答を得た。2014年9月に実施した。探索的な研究なのでまず小人数でおこなった。

Ⅲ. 結果

1. 育児態度について

6つの質問で、「3子育て期は大人が我慢しなければならないことが多い」「5子どものため私の生活はかなり制限されていると思う」の2つが育児の負担感の項目である。「1子どもは厳しくしつけをした方がいい」「子どもにはルールやマナーをきちんと教えたい」がしつけに厳しい態度である。そして「2子どもに楽しい体験を

表1:親の育児態度

育児を負担に感じる

2つの質問の計の度数分布

0	2
1	0
2	3
3	8
4	11
5	16
6	14
7	9
8	4

育児を負担に感じる
ことが少ない群

}

育児を負担に感
じる群

}

しつげに厳しい態度

2つの質問の計の度数分布

0	0
1	0
2	0
3	0
4	3
5	5
6	29
7	24
8	6

しつげに厳しく
ない群: 5点の1
名は一つの質問
の答えが4(最高
点)なので除外し
た

}

しつげに厳しい
態度の群

→

楽しみを共有する態度

2つの質問の計の度数分布

0	0
1	0
2	0
3	0
4	2
5	3
6	13
7	29
8	20

育児の楽しみを共有
する態度を持って
いる人が多く、この態度
の違いによるグルー
プの比較ができない

たくさんさせてあげたい。」「4子どもが喜びそう
うなことをいつも考えている。」が、共有的育児

態度である。二つの項目の合計の度数分布をつ
くり、育児の負担感、しつげに厳しい態度、楽
しさを共有する態度について、得点の高い人の
群、低い人の群をつくる。育児を負担に感じる
ことが少ない群13人、育児を負担に感じるこ
とが大きい群13人、しつげにあまり厳しくな
い群7人、しつげに厳しい群6人である。楽し
みを共有する態度があまりない群5人、楽し
みを共有する態度が高い群20人で、偏りが大き
い。

この3つの態度は別々のものである。重なっ
ている人を見ると、育児の負担感が大きい共
有的態度も大きい人が3人、育児の負担感が小
さくしつげも厳しくない人が3人、しつげ態度
が厳しくなく共有的態度が小さい人も3人であ
る。質問項目どうしの相関係数で、2「子ども
に楽しい体験をたくさんさせてあげたい。」と3
「子育て期は大人が我慢しなければならないこ
とが多い」に正の相関がみられ、(r=.21*)、も
しかしたら、楽しい体験を共有するのではなく、
自分が我慢して子どもに楽しい体験をさせよう
という態度の人も含まれるのかもしれない。

2. 実際の関わりについて

実際の関わりについての9つの質問について
表2(次ページ)に回答の平均を掲げる。「4悪
いことをしたらどうしていけないか伝える」「8
苦手なことに挑戦していたら励ましたりほめたり
する」「9不安になっているときは身体に触れ
たり大丈夫と言ったり安心させる」などはいつ
もそうしているが多く、「2いうことを聞かない
と感情的に叱る」「6いうことを聞かないとい
たたいしてしまう」はまったくそうしないあ
まりそうしないという回答が多い。

これらの質問項目を分類してみると、大きく
3つの要因に分けられる。II-1「忙しくても子
どもとたくさん話すようにしている」という態
度、4「悪いことをしたらその行動がどうして
いけないか伝える」7「子どもが困っていたら
すべきことをわかりやすく説明する」「8子ど

表 2: 質問 II 親の実際の関わり質問と回答 (0 全くそうしない~4 いつもそうしている) の平均

1 忙しくても子どもとたくさん話すようにしている	2.87
2 いうことを聞かないと感情的に叱ってしまう	2.54
3 一緒に買い物をしていて子どもが泣いたりするとつい好きなものを買ってあげる	1.13
4 子どもが悪いことをしたらその行動がどうしていけないか伝える	3.60
5 子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている	2.77
6 いうことを聞かないとついたたいてしまうことがある	1.76
7 子どもが困っていたらするべきことをわかりやすく説明する	2.86
8 子どもが苦手なことに挑戦していたら励まし、頑張ったねと褒めたりする	3.48
9 子どもが不安になっているときは、大丈夫だよと身体に優しく触れたりし安心できるようにする	3.53

もが苦手なことに挑戦していたら励まし頑張ったねと褒める」「9 子どもが不安になっているときは大丈夫と安心させる」という行動で、これらは言葉のコミュニケーションが多い態度 (要因 1) とまとめられる。

要因 2 は、質問 II—2 いうことを聞かないと感情的に叱ってしまう行動、質問 II—6 いうことを聞かないとついたたいてしまうという行動であり、「しかる」行動といえる。これらの態度と質問 1 の親の育児態度でしつけに厳しいこととに有意な相関がみられた。II—2、II—6 の行動と、I の「子育て期は大人が我慢しなければならぬことも多い。」にとくに関連は見られなかった。

要因 3 は「3 一緒に買い物をしていて子どもが泣いたりするとつい好きなものを買ってあげる」「5 子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている」であるが、これらは、親の育児態度の楽しさを共有するような育児態度と関連は見られないし、しつけに厳しい・甘いこととも関連が見られなかった。

3. 家での生活

起きる時間・寝る時間を尋ねたが、起きる時間は 6 時から 8 時が多く、寝る時間は 8 時から 9 時が多かった。テレビはバラツキが多く、1~2 時間という答えから、5 時間とかずっとという回答もあった。

表 3: 習いごと

	男	女
水泳	8	9
ピアノ	2	10
音楽教室	0	1
公文などの学習	3	4
体操・ダンス	7	5
サッカー	22	0
空手・柔道	1	0
英語	1	7
バレエ	0	2
何もしていない	4	5
その他	0	2

習い事は、1 つか 2 つの人が多い。表 3 に集計表を掲げる。多いと 4 つという人があり、何もしていないという人も 9 人いた。育児への負担感の大小によって習い事との関連があるかをみてみたがあまりはっきりしなかった。たくさん習って負担感の大きい親と、負担を感じて何もしていない家庭といろいろあるといえよう。絵本の読み聞かせは、0 まったくそうしない 8 人から、1 あまりそうしない 17 人、2 どちらとも言えない 12 人、3 かなりそうする 14 人、4 いつもそうする 15 人までばらつきが大きい。平均は 2.17 であった。絵本の読み聞かせをよくすることは、II—1 「忙しくても子どもとたくさん話すようにしている」という態度と関連

表4:好きな遊び

	男	女
ブロック・パズル	15	14
お人形遊び	2	23
ミニカー・プラレール	11	1
ヒーローごっこ	17	1
おままごと	3	23
お店ごっこ	2	19
ポケモンなどのカードゲーム	10	0
ボール遊び	12	11
ゲーム	17	8
折り紙	1	3
工作	0	4
お絵かき	1	5
自転車に乗る	1	1
ぬり絵	0	4
読書	2	0

が強く(相関係数 $r=.27^*$)、また、絵本の読み聞かせをよくすることは「Ⅱ-9子どもが不安になっているとき大丈夫だよと身体にやさしく触れたり、安心できるようにする」行動とも関連が強い($r=.21^*$)。他のことばのコミュニケーションの項目、7「子どもが困っていたらわかりやすく説明する」8「子どもが苦手なことに挑戦していたら励まし、頑張ったねと褒めたりする」行動と絵本の読み聞かせとは関連は強くない。質問Ⅰの親の態度と絵本の読み聞かせの関連を調べようと相関係数を計算してみたが、絵本の読み聞かせは、1~6の質問のどれとも関連がなかった。

好きな遊びについて、表4に掲げる。やはり、お人形遊び、おままごとは女子に多く、ミニカー・プラレール、ヒーローごっこは男子に多い。

好きな遊びの数を数えてみると、2~4つの遊びに印をつけた人が多く、多い人で7つ、平均3.1であった。数人で遊ぶ遊びのほか、折り紙、工作といったじっくり自分で考えて取り組むものをあげた人が多い。

次に、「友達が遊びに来たり友達のところへ遊びに行ったりすることがありますか」という質問について、まったくないが4人、いつもそうしているが4人で、他の人たちはこの間に印をつけ、平均は2.05であった。この友達づきあいの多さと、好きな遊びの多さは、対応がみられ、行ったり来たりすることが多いほど、好きな遊びの数が多い結果であった($r=.21^*$)。

習いごとが多いと遊ぶ時間が少ないのかと思ったが、そうでもないようで、習いごとが多いと好きな遊びの数が多いという結果であった。

($r=.22^*$) 習いごとの数と絵本の読み聞かせ態度、習いごとの数と友達と行き来することの多さには特に関連は見られなかった。

絵本の読み聞かせが多いことと、友達が遊びに来たり遊びに行ったりすることが多いことには関連がみられた($r=.22^*$)。

4. 子どもの日常の行動

子どもの日常行動について11の質問項目がある。全体に、年中のクラスでは回答のばらつきがあるが、年長クラスではいつもできる(4)という答えが多くなる。各項目の年中年長クラスの平均を表5(次ページ)に掲げる。

5. 子どもの日常の行動と親のしつけ態度との関連

この、子どもの日常の行動は親のしつけ態度とどう関連しているか、質問Ⅰとの関わりを見してみる。質問Ⅰ-1「子どもは厳しくしつけをした方がいい。」という項目とはどれもあまり関連がみられず、質問Ⅳ-5「乗り物や大勢の人おなかでだだをこねたりしないでおとなしくしている」という項目と負の相関($r=-.22^*$)であった。厳しいしつけの結果おとなしくしているのでなく、子どもが大勢の人のなかでおとなしくしていられないので、もっとしつけをした方がよいと思っているということであろうか。ほかに質問Ⅰの6「子どもにはルールやマナーをきちんと教えたい」という項目と子どもの行動

幼児期の親の関わりと子どもの行動

表5:子どもの日常の行動（まったくそうしない0~いつもそうしている）年中クラス33人、年長クラス34人の答えの平均

質問項目	年中	年長
1「片づけましょう」というとお片づけができる	2.78	2.82
2「ちょっと待っててね」といえば待ってられる	2.78	3.24
3食事の前には手を洗うよう習慣づけている	2.60	3.06
4プレゼントをもらったらありがとうというようにさせている	3.78	3.85
5乗り物や大勢の人のなかでだだをこねたりしないでおとなしくしている	3.25	3.35
6よそに行ったときは走り回ったりしないでおとなしくする	2.76	3.06
7困ったことがあったら先生やお母さんにことばで助けを求める	2.85	3.06
8遊びたいおもちゃを人が使っているとき、「次貸してね」といって順番を待つことができる	2.88	3.26
9数字やひらがなを拾い読みする	3.18	3.62
10読んでもらったことのある絵本を自分で読もうとする	2.90	3.09
11大人に何か質問されたらきちんと答える	3.00	2.97

表6:親の関わり（質問Ⅱ）と子どもの日常の行動（質問Ⅳ）の関連

Ⅱ-1 忙しくても子どもとたくさん話すようにしている

Ⅱ-5 子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている

Ⅱ-7 子どもが困っていたらするべきことをわかりやすく説明する

Ⅱ-8 子どもが苦手なことに挑戦していたら励まし、頑張ったねと褒めたりする

Ⅱ-9 子どもが不安になっているときは大丈夫だよと身体にやさしく触れたりし安心できるようにする

Ⅳ	Ⅱ-1	Ⅱ-5	Ⅱ-7	Ⅱ-8	Ⅱ-9
2「ちょっと待っててね」といえば待ってられる	.33**	.30**	.18	.32**	.33**
7困ったことがあったら先生やお母さんに助けを求める	.37**	.32**	.11	.15	.28*
8遊びたいおもちゃを人が使っているとき、順番を待つことができる	.08	.23*	.35**	.39**	.43**
9数字やひらがなを拾い読みする	.01	.37**	.49**	.43**	.36**
10読んでもらったことのある絵本を自分で読もうとする	.01	.35**	.28*	.18	.17
11大人に何か質問されたらきちんと答える	.29**	.27*	.43**	.25*	.33**

相関係数の値 **は1%水準の有意差、*は5%水準の有意差があることを示す。

の質問Ⅳの4「プレゼントをもらったらありがたいというようにさせている」には有意の正の相関 ($r = .38^{**}$) がみられ、これは、マナーのしつけをきちんとしようとして、プレゼントをもらったときありがたいというようにさせるといふことを実践しているといえる。ほかの項目とはあまりはっきりした関連がみられなかった。

「絵本の読み聞かせをしていますか」という質問と子どもの行動の9「数字やひらがなを拾い読みする」10「読んでもらった絵本を自分で読もうとする」との間に関連がみられ（読み聞かせと質問9とは、 $r = .21^{*}$ ）読み聞かせと質問10とは $r = .28^{*}$ ）、読み聞かせをすることが、子どもが自分で文字を読もうとすること、絵本を読もうとすることにつながっていることがわかる。

6. 親の関わり行動と子どもの生活行動

Ⅱの親の関わり行動とⅣの子どもの日常生活行動との関連を見てみる。

親の関わりの「叱る」行動は、子どもの行動の抑制と負の相関がみられた。親が「いうことを聞かないとつい感情的に叱ってしまう」ことが多いことは、子どもは『ちょっと待っててね』といって待てられる」（ $-.41^{**}$ ）「よそに行ったとき走り回ったりしないでおとなしくしている」（ $-.44^{**}$ ）と負の相関、要するに子どもは言われても待てない、おとなしくしてられないので、親が感情的に叱るのであろう。「いうことを聞かないとついたたいてしまう」親の行動と「乗り物や大勢の人のなかでだだをこねたりしないでおとなしくしている」子どもの行動と負の相関（ $-.28^{*}$ ）がある。子どもが待つ、静かにするという行動ができないとき、ついきつく叱るということであろう。行動の抑制は幼児期の発達の経過にともなうことができるようになることであり、言っても待てない時期を経てできるようになる。「～するな」というと余計に行動を促進してしまう時期もあるので、関わりに注意が必要である。

このほかに特に関連が強い項目を表6に掲げる。子どもに影響が大きいのはⅡ-1「忙しくても子どもとたくさん話すようにしている」や「子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている」というものである。この「親と一緒に遊ぶ」ことは、子どもの人とのやりとり行動の発達に良い影響を持っているといえる。説明的しつけをしたほうがよいという先行研究があるが、今回の調査のⅡ4「悪いことをした時なぜそれがいけないか説明する」という項目は「電車や大勢の人のなかでおとなしくする」などとの関連もなく、ほかの子どもの行動とも関連がみられなかった。説明的なかかわりというのは、幼児期よりも少しあとの小学生くらいが適切かもしれない（佐藤, 1982）。表6を見るとこの調査では、一緒に遊ぶことのほかに、困っていたら説明する、うまくいったことを褒める、不安を感じていたら慰めるなど、関わりが多いことが、子どものことばのやり取りの発達に良い影響をもたらしていることが示されたといえる。

Ⅳ. 全体的な考察

親の育児態度について、厳しいしつけをという態度は体罰につながりやすいことがわかった。また、育児を負担に感じる態度は、意味のとらえ方が多様で他の質問との関連があまりみられなかったと思われる。楽しさを共有する態度はかなり多くの人がそうであった。

実際の生活については、子どもの習い事や好きな遊びなど現代の幼児の生活行動について一通りの結果が得られたと思う。絵本の読み聞かせは、一緒に遊ぶことや不安なとき安心させる関わりと関連がみられ、親子の温かな情緒的交流といえる。

また、親の関わり行動と子どもの行動について、単に説明的な関わりでなく、一緒に遊び、ほめたり慰めたりする温かい関わりが、子どもがほかの人とうまく関わるができるという、やり取りの発達を促すということが示された。子どもの人との関わりの発達には、しつけとい

うより、一緒に遊び、頑張ったときほめたり、不安なときは安心させたりする関わりが一番よいということが示されたといえる。

日本人の家庭の関わり方について、東(1994)は、日本とアメリカの母親に、しつけ態度の調査し、その比較研究から、日本人のしつけは教え込むことをせず、文字に触れるなどの文化的な環境を整え、家庭で関わっていくうちにじんわりと伝えるような「滲みこみ」型のしつけである、としている。本研究でも、日常的な親子の親密な関わりが子どもの発達を促すという同様の結果が得られたといえると思う。

文献

- 東洋 1994 日本人のしつけと教育—発達の日米比較にもとづいて 東京：東京大学出版会
- 原田正文 2006 子育ての変貌と次世代育成支援—兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防 愛知：名古屋大学出版会
- Hoffman, M.L. & Saltzstein, H.D. 1967 Parent discipline and the child's moral development. *Journal of Personality and Social Psychology*, 5,45-57
- 中島力編 1993 子どもの社会的発達 東京：ソフィア
- 大内晶子 2011 幼児の自己制御機能と親の養育スキルとの関連：性差および学年差の検討 常盤短期大学研究紀要 39 11-19
- Radke, M. 1946 *The relation of parental authority to children's behavior and attitude*. University of Minnesota Press, Saint Paul, Minnesota.
- 三鈷泰代 2008 幼児期の子どもを持つ親の養育スキルに関する研究—親の養育スキルと子どもの行動傾向との関連（中間報告） 発達研究 22 公益財団法人発達科学研究教育センター 181-190
- 三鈷泰代 2009 幼児期の子どもを持つ親の養育スキルに関する研究—親の養育スキルと子どもの行動傾向との関連 発達研究 23 公益財団法人発達科学研究教育センター 57-71
- 佐藤哲夫 1982 子どもの愛他行動と親子関係に関する研究 異文化間教育学会ニューズレター 3 8-9
- Symonds, P. 1937 *The psychology of parent-child relationships*. Prentice-Hall, Upper Saddle River, New Jersey.
- 詫磨武俊・滝本孝雄・鈴木乙史・松井豊 2003 性格心理学への招待 東京：サイエンス社
- 内田伸子・浜野隆・後藤憲子 2009 『幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的要因の影響—日韓中越蒙国際比較研究：2008年度日本報告』お茶の水女子大学グローバルCOE格差センシティブな人間発達科学の創成・国際格差班プロジェクト報告書